

実践のまとめ（第3学年 国語科）

村上市立小川小学校
教諭 平岡 奈緒

1 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの授業実現

～学び合いを取り入れ、学びを自覚しながら振り返りを記述する子の育成～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めることを位置付けている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現では、学習の目的・学習方法がどれぐらい実現できているかを評価する「振り返り」の時間を設定することが必要であり、その際には、自分と他者の考えを比較・検討・協議する場を意図的に設定していくことが重要である。この視点からこれまでの授業を振り返ると、自分の考えをもたせ、グループの中で考えの交流をさせてきたが、さらに考え直させるまでに至らなかったことが多かった。

そこで学習課題に対し、考えの交流の場である「学び合い」を意図的に取り入れることで、もう一度自分の考えと比較したり、再検討したりする姿につなげたい。また、その過程を「振り返り」によって児童が主体的に次の学習へ生かしていける授業を行いたいと考え、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 国語科の見方・考え方（「読みの観点」）の活用

読みの観点とは、文学的・説明的文章を読み進める上で、児童が自ら読みを進め、考えを深めていくのに役立つものである。また、学習指導要領の目標や発達段階に応じた読みの観点を活用することで、児童に自ら課題解決する読み取りの力が身に付くと考える。私が児童に提示した説明的文章の読みの観点は以下の通りである。

「読みの観点」

- | | | | |
|-----|------------------|--------|--------|
| ①段落 | ②文と写真・絵（段落と写真・絵） | ③具体と抽象 | ④問題提示 |
| ⑤説明 | ⑥結論 | ⑦文型 | ⑧文章構成図 |

② 学びを自覚した振り返りの視点

授業の終末に「振り返り」を書く時間を必ず設け、問題解決（本時のめあて）を通して分かったことやグループ対話の中で納得したこと、自分の考えの変容など、学び合った内容を中心に、文章化させていく。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 読みの観点を活用して、課題解決をしている児童が増える。
- ② 友達の名前や考えを明確にして振り返りを記述する児童が増える。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう（小学校国語三下 光村図書）
「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。【知識及び技能(2)イ】
- ・ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知識及び技能(3)オ】
- ・ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等B(1)ウ】
- ・ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C(1)ア】
- ・ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 【(2)イ】 ② 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。【(3)オ】	① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。【B(1)ウ】 ② 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【B(1)ウ】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明される内容とそれを支える事例との関係などについて積極的に叙述を基に捉えたり、それらを明確にして書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、文章の説明の工夫を見付けてそれを生かして書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全15時間、本時5／15時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「すがたをかえる大豆」を読み、大体の内容を捉える。 ・ 何文か、根拠を基に考える。 	◎ 文章の種類は何か考えよう。	思考・判断・表現② 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【ノート】
2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段落を付けながら文章全体の組み立てを考える。 	◎ 段落はいくつあるか考えよう。	

(2)	<ul style="list-style-type: none"> 各段落に書かれている内容を理解するために、写真がどの段落と一致するのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ どの段落と写真が一致するのか考えよう。 	<p>思考・判断・表現②</p> <p>段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【ノート】</p>
(2) 本時	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの段落で中心となる文や接続語などに注目して、「はじめ」「中」「終わり」に分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「はじめ」「中」「終わり」に分けよう。 	<p>思考・判断・表現②</p> <p>段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【ノート】</p>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> 「中」で挙げられている事例を整理し、書かれ方の工夫を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「中」にはどんなことが書かれ、どんな工夫が隠されているか考えよう。 	<p>態度</p> <p>積極的に事例の書き表し方や工夫を見付けようとしている。 【ノート】</p>
3 (4)	<ul style="list-style-type: none"> これから学習する内容に見通しをもち、今後の学習計画を立てる。 食材を決めて調べる。 調べた内容を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ すがたを変えて食品になる材料にはどんなものがあるか考えよう。 ◎ グループで食材を決め、調べよう。 	<p>知識・技能①②</p> <p>比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 【観察・記述】</p> <p>幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 【ノート】</p>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> 組み立ての例の書き方を考える。(順序) 決めた食材についての文章の下書きをする。 清書をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ どんな例の書き方にするか考えよう。 	<p>思考・判断・表現①</p> <p>自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 【記述】</p> <p>態度</p> <p>積極的に事例の書き表し方を工夫し、説明する文章を書こうとしている。 【観察・記述】</p>
(1)	<ul style="list-style-type: none"> 友達と文章を読み合い、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 友達の文章を読み感想を伝えよう。 	

4 単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

3年生2回目の説明的文章の学習である。前回の学習では、「はじめ」「中」「終わり」といったまとまりや「中」での事例の述べ方に注意して読むことを学んだ。また、別の単元

では組み立てを考えて報告文を書いた。本単元では、既習事項を活用して文章を読み取り、文章全体の組み立てを考え、書き手としても相手に分かりやすい説明的文章を書くことを目指す。またその際には、学び合いを通して自分の読みと比較・検討する場を設け、自分の読みをより深めていき、説明的文章を書く際に活用させていく。

(2) 児童（生徒）の実態

文章を読むことは好きであるが、自分の考えを发表或し、書いたりすることに苦手意識があり、あまり国語の学習に意欲的ではない児童がいる。そのため日々の授業では、3人のグループでの学び合いを中心に考えを交流させ、自分と友達の考えとを比較・検討する場を意図的に設けることで、自信をもって自分の考えを発表することができるようになってきた。また、「読みの観点」を提示したことで、文章に立ち返り、根拠を探そうとする児童が増えてきた。そこで本単元では、既習事項を生かし、段落相互の関係に着目しながら、叙述を基にして根拠となる言葉を捉えさせたい。また筆者の例の書き方に気を付けながら、説明的文章を書かせたいと考える。

5 本時の展開（令和5年10月25日実施）

(1) ねらい

段落相互の関係に着目し、考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

(2) 展開の構想

- ① 「はじめ」「中」「終わり」に分ける（読みの観点）ことを通して、「中」には、事例が列挙されているという文章構成であることや事例が「次に」「また」「さらに」などの言葉を使って、順序立てて整理されていることに気付かせる。
- ② グループで学び合ったことを中心に、自分の考えとの比較や再検討した結果を記述させ、誰の考えのもとに、自分の考えが変容したのか、もしくは変容しなかったのかといった点について、具体的に記述させる。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5	○ 全文を読む。 ○ 本時の題意をつかむ。	◎ 前時を思い出させ、本文の内容を確認させる。	
題意 「はじめ」「中」「終わり」に分けよう。			
展開 30	○ 自力解決をした後で、グループでの学び合いを行う。 ○ 全体での共有をする。考えが分かれている所を中心に検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじめ」① 「中」 ②～⑦ 「終わり」⑧ ・ 「はじめ」①② 「中」 ③～⑦ 「終わり」⑧ ・ ③から大豆がおいしく食べられる工夫が書かれているよ。 ・ ②は大豆の豆の説明だから、「はじめ」に入ると思う。 	◇ 次に・また・さらになどの接続詞があることで、順序立てて説明がされていることに気付かせる。 思・判・表② 段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に「はじめ」「中」「終わり」を分けることができる。

		◎ 「はじめ」が①なのか①②なのか、所属を明らかにして検討する。	【ノートの記述】
まとめ 10	○ グループで学び合ったことや全体共有して納得したことをノートに記述する。	◎ 誰のどの考えに納得したのか明記させることや自分の考えに変容があれば、そのことを中心に振り返りを書く。 ・ 初めは、①だけが「はじめ」だと思ったけど、〇〇さんの考えを聞いて①②が「はじめ」だと分かりました。	態度 グループで学び合ったことや自分の考えと比較した振り返りを書いている。 【ノートの記述】

(4) 評価

- ・ 段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に「はじめ」「中」「終わり」を分けることができる。
【思考・判断・表現 ノートの記述】
- ・ グループで学び合ったことや自分の考えと比較した振り返りを書いている。
【主体的に学習に取り組む態度 振り返りの記述】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

- ① 「すがたをかえる大豆」の全文を読み、何文か根拠を明らかにして考える。（第1次）

まず、児童がどんなことに興味をもち、一度読み聞かせた段階で、既習事項である「読みの観点」を活用して全文を読み取ることができるかを確認するためにも、初発の感想を書かせた。その際に最も多く出た児童の意見は、以下の通りである。

- 1 大豆が色々な食品になっていることを初めて知ったこと（枝豆やもやし、醤油やきなこなど）。
- 2 作る工程を初めて知ったこと（豆腐・納豆・醤油）。
- 3 説明文であること。理由：「問い」がある→なんだか分かりますか。（P. 42）

文章の種類は何かを考える前に、説明文であることを理解している児童が多く、全ての児童が「説明文である」と答えることができた。理由は様々であったので、学び合いを通して全体で考えの共有をし、読みを深めることができた。（図1参照）



図1

② 各段落に書かれている内容を理解し、文章全体の組み立てを考える。（第2次）

内容理解のために、教科書に記載されている写真と段落を一致（読みの観点の活用）させた。すぐに一致する写真もあれば内容と写真が一致するのかどうか、疑問が残るものもあり、全体で考えの共有を図る必要があった。特に考えが割れたのは、①か②の段落と一致する写真である。写真は根が付き、収穫したばかりの大豆の写真で、一般的に話題性を演出するものであったが、書かれている内容と一致すると判断できず、詳しく読み取ることが重要であった。大豆・ダイズという表記の違いや「植物のたね」という説明などを根拠とし、学び合いを通して写真を一致させながら、内容を理解することができた。（図2・図3参照）

また、振り返りの記述では、友達の名前を出し、自分の考えの変容や写真が載っている場所によって安易に写真を一致させてはいけないこと、全部の段落に写真が一致するわけではないことなど、学習した内容を記述することができた。

授業時は、「はじめ」「中」「終わり」に分けることを通して、内容理解を行い、予想通り①と②を「はじめ」に入れるのか、どうかで意見が分かれた。文章から根拠を見付けさせることや考えの違いを共有させることで、児童の読みを深めさせることができた。

③ 学習したことを生かし、自分で決めた食品についての説明文を書く。（第3次）

接続詞を使うことや例の書かれ方の順序に気を付け、文章構成を考えさせた。（①話題提示②食品の説明③～⑤例⑥まとめ）また、各段落に食材や行程の絵を付けることも行い、学習したことを生かした説明文を書くことができた。（図4参照）

(2) 研究テーマに関わって

研究結果に関する評価結果は以下の通りである（図5・6参照）

【読みの観点を活用して、課題解決をしている児童が増える】

① 読みの観点は教室に掲示し、学習中に児童が常に確認できる環境を作っている。そのため、課題解決時には、掲示物を確認する児童が多い。また、単元の学習の流れを固定化し、読みの観点を活用させた学習形態を行っていることから、教材文を一読するだけで、児童が主体的に本文の内容把握を行っている姿が見られるようになった。自分の考えをより確かなものにするためにも、読みの観点を根拠にすることが多く、児童がより深く文章を読み、課題解決をする姿勢につながっていると考えている。

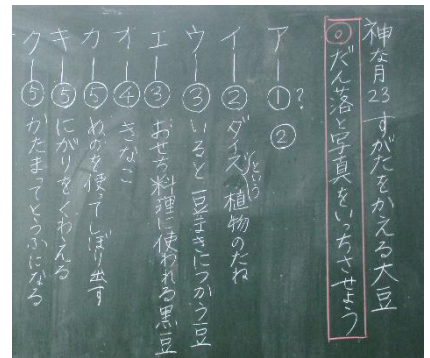


図2

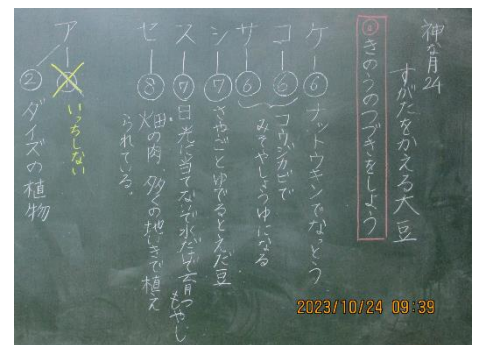


図3

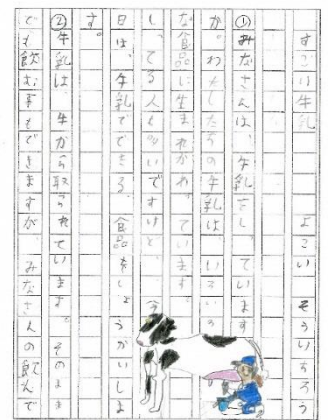


図4

その結果、国語の授業が好きになったと肯定的に捉えている児童は83.4%である。その理由として『説明文か物語文か考えるのが楽しい』『2年生の時は国語がよく分からなかったけど、3年生になって分かるから楽しい』と答えている。読みの観点を活用することで、国語の授業が分かるようになったと考えられる。

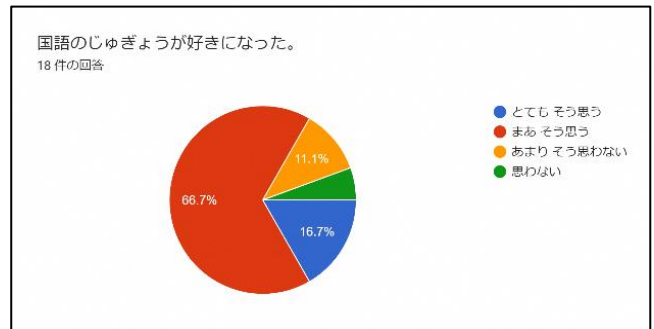


図 5

【友達の名前や考えを明確にして振り返りを記述する児童が増える】

② 実際の児童の振り返りでは、話し合ったことをもとに、自分の考えの変容や納得した内容を書く児童がほとんどであった。自分の考えを話して終わってしまう話し合い活動ではなく、友達の考えをしっかりと聞き自分の考えと照らし合わせるといった思考の流れを振り返りに書くことで、学びを自覚していると評価できる。

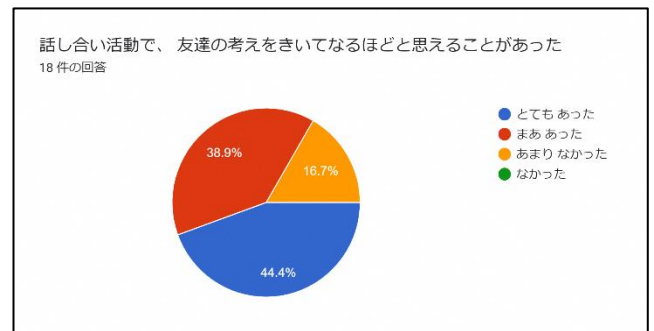


図 6

アンケートの結果を見ると、話し合い活動で、友達の考えを聞いてなるほどと思えることがあると肯定的に捉えている児童は、83.3%であった。その理由として『友達と理由が違うから話し合うことが必要』『自分の考えと違うからびっくりする』『自分とは真逆の意見だったら、みんなが納得する意見を言って、なるほどって思える』『友達が自分が思わないことを言うから』など、考えを共有することで自分の考えを見直したり、新たな発見をしている児童がいることが分かった。また、授業後の振り返りに話し合っただけで感じたことを、友達の名前や具体的な考えを明記して記述する児童が増え、学びを自覚しながら振り返りを記述していると考えられる。

(3) 今後の課題

アンケート結果から読みの観点を活用し、友達との学び合いを通して学習することは、内容を深く理解するだけでなく、分かることや知ることが楽しいという学習意欲を高めることも分かった。自分の考えを友達に伝えることができた児童は88.8%で、自信をもって考えを話せる児童も多い。自分と友達の考えを共有し、さらに考えを練り直す活動を繰り返すことで児童の自発的な学習課題解決能力を上げていくことを目指したいと考える。

<参考文献>

文部科学省（2008.8）『小学校学習指導要領解説』

光村図書（2020.2）『小学校国語 学習指導書下』

文部科学省（2020.2）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』